

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・「自立活動の充実」については、保護者、学校関係者、職員共に高い評価を得た。R5年度の校務分掌組織には「自立活動部」を設定した。さらに自立活動への取り組みを充実、発展させていく。</p> <p>・「センター的機能の充実」については、基本的な業務はコロナ禍においても適切に実施されている。R5年度以降もさらなる充実発展が求められる。</p> <p>・特別支援教育とICT教育は、障害種を問わず様々な活用がなされている。R4年度からR5年度にかけて研究指定を受けおり、さらにこの分野を充実発展させていく。</p> <p>・「自立と社会参加」の中で「進路指導」は大きなウエイトを占める。R5年度以降も引き続き力を入れて取り組んでいく必要がある。</p> <p>・感染症対策については、保護者や学校関係者の評価も高い。安全、安心な学校環境をこれからも維持していく。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	一人一人に応じた指導・支援をととして、児童生徒がもっている能力や可能性を最大限に伸ばし、明るくすこやかで豊かな心を持ち、自立し社会参加できる児童生徒の育成を目指す。
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>「児童生徒の豊かな生活と成長の保障」</p> <p>① 専門性の更なる向上と教育活動への反映</p> <p>② 個に応じた進路指導の充実</p> <p>③ 特別支援教育のセンター的機能の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握と学習指導要領の各教科等の学習状況を踏まえて学習内容の設定を行い、学力の定着につながる授業ができたと答える教員が85%以上	・個別の指導計画の作成をとおして、児童生徒の実態を把握し、学習指導要領の各教科等の内容と「学びの履歴」を踏まえて学習内容の設定を行う。 ・新設した教科指導力向上委員会、教科の専門性を生かした授業実践について検討する。また、学年や学習グループでの個別の指導計画の検討と評価を継続して行い、授業改善につなげる。							
	○将来の自立と社会参加に向けた進路指導とキャリア教育の充実	○進路研修や現場実習等の取組をとおして、進路指導やキャリア教育に係る専門性が向上したと回答する教員が80%以上 ○「児童生徒の実態や希望、ニーズに応じたキャリア教育ができています」と回答する保護者が80%以上	・職員に向けた進路研修を年3回実施する。 ・各関係機関、福祉制度等の情報を月1回以上提供する。 ・児童生徒、保護者の希望やニーズを把握した授業や研修、進路見学、現場実習を実施する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学習や児童会の活動、行事等で「豊かな心」を育む指導を心がけた教員が80%以上 ○「豊かな心」を育むために、学校生活が役に立っていると思う保護者が80%以上	・全課程全学年の児童生徒に「平等、尊重」の心を育む児童会活動や集会を実施する。 ・人権・同和研修会を実施する。							生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○早期発見と対応に向け、職員の共通理解ができていると答える教員が80%以上 ○日常の連絡、面談、調査等で、児童生徒の生活状況を学校(担当)と共通理解ができていると答えた保護者が80%以上	・学校基本方針の共通理解と周知徹底のために、職員研修を実施する。 ・職員アンケートを月1回、保護者アンケートを学期1回実施する。							生活指導部
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたの取り組みを、掲示や発表という形でよくまとめてくれると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や生活していく上での楽しみをもって」「」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・児童生徒の創作活動や職場実習、その他の行事で、掲示や発表等という活動成果を認めることができる機会の設定をする。 ・児童会活動において小中高の段階に応じて、将来の夢に繋げられるような、毎日、週末、月、季節ごとの楽しみを喚起する。							
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」と考える児童生徒が80%以上 ○研修や講話によって、食育への知識と意識が高まったと回答する職員が80%以上 ○学校からの情報が、家庭での食育に役立ったとする保護者が80%以上	・職員研修、給食試食会、食育講話等を実施する。 ・食育だよりを発行する。							保健厚生部
	○感染症の予防、感染症拡大防止	○本校の感染症対策基本方針を守っているとする職員が100% ○学校の感染症対策は、適切であると回答する保護者が80%以上	・本校の感染症対策基本方針を周知徹底する。 ・予防及び指導の徹底を図る。 ・感染者が発生した場合には、改善点を検討する。							保健厚生部
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○各職員が分掌部の専門性や知見を地域支援に活かす。本校は地域の特別支援教育のセンター校の役割を十分に果たしているとする職員が80%以上 ○研修会の内容や巡回相談の活用について適宜評価する。巡回相談における支援・助言により状況が改善したと考える学校が80%以上	・地域の要請に応じて、校内の分掌部及び専門家チーム、地域のアドバイザーや各関係機関と連携しながら巡回相談を実施する。地域支援組織表を作成し、各分掌部会や職員会議でセンター的機能の役割を周知し、年度末に評価を行う。 ・研修会後等にアンケートを行い、研修会や巡回相談についての地域のニーズを把握し、分析活用する。							地域支援部
	○地域の人々と活動を共にする交流及び共同学習の積極的な推進	○地域の学校・行政・地域各種団体等(中原ふれあい教育を進める会)と連携し、コロナ禍前の地域交流の80%復活を目指す。	・年2回の地域各種団体とのふれあい活動や清掃活動の実施。 ・地域の団体との交流活動として普遊び交流会の実施。							総務部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 遵守できたと回答する職員が80%以上	・毎週金曜日「ノ一会議デー・定時退勤推進日」を設定する。 ・年間12回以上「完全定時退勤日」を設定する。(各校舎の状況に合わせて) ・時間外在校等時間が月45時間を超える職員については管理職による面談を実施する。							管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○1人1台端末を活用した授業改善	○「児童生徒一人一人が「分かる」「できる」授業づくり」(個別最適な学び)を行う上での1人1台端末の効果的な活用	○「児童生徒一人一人が「分かる」「できる」授業づくり」(個別最適な学び)を行う上での1人1台端末の効果的な活用がされていると回答した保護者・職員が70%以上	・全職員が年2回以上は校内外でのICT活用に関する研修会に参加する。 ・外部人材を活用しながら、1人1台端末活用に関する研修を計画的に行う。 ・個人やチームで教科指導や自立活動の視点から授業を振り返り、改善する。 ・保護者や地域に向けての広報誌を年4回発行する。							

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>
----------------	-------------------------------